

令和 8 年定例会

政策企画雇用経済観光常任委員会

所管事項説明資料

◎ 所管事項説明

- 1 『令和 8 年版県政レポート』に基づく今後の『県政運営』等に係る意見
への回答について . . . 1
- 2 次期総合計画の策定について（みえ元気プランの検証と 2031 年の目標）
. . . 別途配布済
- 3 三重県観光振興基本計画年次報告について . . . 3
- 4 次期三重県観光振興基本計画（素案）について . . . 9
- 5 指定管理者が行う三重県営サンアリーナの管理状況報告について . . . 15
- 6 令和 8 年度上半期の主な取組について . . . 25
- 7 各種審議会等の審議状況の報告について . . . 27

(別冊資料)

資料 1 三重県観光振興基本計画年次報告書（令和 7 年度施策実施状況）

令和 8 年 10 月 5 日

観 光 部

1 「『令和8年版県政レポート』に基づく今後の『県政運営』等に係る意見」への回答について

【政策企画雇用経済観光常任委員会】

●施策の取組

施策番号	施策名	主担当部局名	委員会意見	担当部局の答弁
5-2	戦略的な観光誘客	観光部	交通事業者等と連携し、インバウンドに三重の魅力が伝わるようなさまざまな取組を検討されたい。	インバウンド誘客には、観光地の魅力に加え、周遊ルートやアクセス方法も含めて発信することが重要と考えています。そのため、鉄道事業者と連携し、観光地の魅力とアクセス情報をセットにしたプロモーション等に取り組んでまいります。

3 三重県観光振興基本計画年次報告について

みえの観光振興に関する条例（平成 23 年三重県条例第 34 号）第 21 条第 5 項の規定により、三重県観光振興基本計画（令和 6 年度～8 年度）（以下、「基本計画」という。）に基づく施策の実施状況等について、令和 7 年度分を年次報告として取りまとめました。

（１）三重県観光振興基本計画の目標達成状況

		目標項目（KGI）	R 7 目標	R 7 実績	R 8 目標
主目標		観光消費額	5,560 億円	5,697 億円	6,000 億円 ～ 7,000 億円
		目標項目（KGI）	R 7 目標	R 7 実績	R 8 目標
副目標 1	旅行者よし	観光紹介意向率	40.8%	37.2%	45.0%
副目標 2	事業者よし	観光従事者満足度	57.0%	64.4%	60.0%
副目標 3	地域住民よし	観光がプラスの効果をもたらすと捉えている地域住民の割合	73.2%	60.8%	75.0%
		目標項目（KPI）	R 7 目標	R 7 実績	R 8 目標
戦略 1-1	持続可能な観光地マネジメント	持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数	累計 3 地域	累計 3 地域	累計 5 地域
		先駆的DMOの認定数	0	0	1
戦略 1-2	観光の質の向上による高付加価値化	日本人宿泊者観光消費単価	29,500 円	31,376 円	30,960 円
		外国人観光消費単価	48,950 円	51,000 円	50,600 円
戦略 1-3	三重の特色を生かした滞在型観光の推進	平均宿泊日数	1.30 泊	1.20 泊	1.33 泊
戦略 1-4	旅行者を受け入れる基盤の整備	宿泊者満足度	48.3%	42.4%	50.0%
		県外宿泊者 5 回以上リピーター率	63.4%	54.9%	65.0%
戦略 2-1	戦略的な観光マーケティングの推進	観光地域マーケティング戦略を策定したDMOの数	2	2	3
戦略 2-2	国内観光誘客の推進	日本人延べ宿泊者数	904.0 万人	898.8 万人	995.6 万人
		宿泊を伴う教育旅行で県外から訪れた学生数	69,000 人	40,949 人	69,000 人
戦略 2-3	インバウンド誘客／MICE・産業観光の推進	外国人延べ宿泊者数	42.0 万人	38.0 万人	45.4 万人
		国際会議開催件数	12 件	9 件	15 件
戦略 3-1	観光産業の生産性向上	生産性向上に取り組んだ事業者数	累計 25 者	累計 117 者	累計 40 者
戦略 3-2	観光産業を支える人材の確保・育成・定着	待遇改善に取り組んだ事業者数	累計 25 者	累計 84 者	累計 40 者

(2) 令和7年度の主な取組状況（※基本計画に記載の主な取組に対する実施状況を抜粋。）

施策の柱1 質が高く、持続可能な観光地づくり

〔戦略1-1 持続可能な観光地マネジメント〕

【持続可能な観光地づくりの推進】

- 地域DMO等に対し、データの収集・分析といったデータマーケティング支援のほか、各地域DMO等が課題とする業務や事業等について、地域のニーズに基づいたオーダーメイド型の支援を実施しました。

【観光部 観光振興課】

〔戦略1-2 観光の質の向上による高付加価値化〕

【高付加価値旅行者から選ばれる観光基盤の充実】

- 欧州における高付加価値旅行者層を含むミドルエンド層に対して三重県のプロモーションを実施するため、フランスに現地レップを設置し、高付加価値旅行者層向けの商談会への出展のほか、三重県を含むツアーの造成に積極的な旅行会社を三重県に招請し、ファムトリップを行いました（旅行会社セールス数：81社、ファムトリップ招請社数：14社（フランス以外の会社含む））。
- 紀伊半島エリアの広域連携事業における高付加価値旅行者層の誘致のための海外旅行会社や海外メディアの招請、セールスツールの作成及び商談会への出展を通じた高付加価値旅行者の獲得に向けたプロモーション等に対して負担金による支援をしました。

【観光部 海外誘客課】

【高付加価値旅行者の旅行体験の充実】

- 「三重県観光ガイド養成プログラム」として、全6回の講座を実施しました。また、プログラム修了者について、個々のガイドスキルや強み、ガイド可能なエリアなどについてまとめた個別ガイドプロフィールを作成し、（公社）三重県観光連盟サイト等で紹介しました。

【観光部 観光振興課】

〔戦略1-3 三重の特色を生かした滞在型観光の推進〕

【周遊促進に向けた滞在価値の創出および宿泊・滞在拠点の整備】

- インバウンド、障がい者、高齢者、親子連れなど国内外の多様な旅行者が快適かつ便利に旅行できる環境を充実させるため、宿泊事業者・観光事業者が実施するインバウンド対応、バリアフリー・ストレスフリー対応等の施設整備に対し補助金を交付しました（実績 補助件数：48件 補助金総額：約5億円）。

【観光部 観光振興課】

- 三重ならではの観光資源を生かした拠点滞在型観光の推進に向けて、R6年度に支援した8団体に対して、滞在型の旅行商品を持続的に提供・販売できる体制の構築や、地域ブランディングの推進を支援しました。

【観光部 観光振興課】

【ガストロノミーツーリズムの推進】

- 御食国事業実行委員会において、インバウンド向けツーリズム造成の取組として、福井～京都～三重を結んだモニターツアーの実施および商談会（ILTM(カンヌ)）や旅行博（LATAS(アメリカ)）への出展等、国内外への「御食国」ブランドの認知拡大に向けたプロモーションの実施に必要な負担金を拠出し、取組を推進しました。

【観光部 観光振興課】

〔戦略1－4 旅行者を受け入れる基盤の整備〕

【バリアフリー観光の推進】

- 観光施設等のバリアフリー対応調査とアドバイスを8施設で実施し、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターのWebサイトで発信するとともに、「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の認定施設数を増加させるための取組として、研修会を県内3地域（鳥羽市、いなべ市、松阪市）で実施し、県内の認定施設数は146件（宿泊施設:117件、飲食店:17件、観光案内所:9件、博物館:3件）となりました。

【観光部 観光振興課】

【観光危機管理の推進】

- 旅行者への周知を図るため、防災対策部と連携し、防災アプリの啓発カードを県内観光施設や宿泊施設等に配付しました。また、市町、観光関連団体、観光事業者等を対象に、災害発生時に観光地で求められる対応や外国人旅行者を含む旅行者への情報伝達の方法について、県内外の地域の具体的な事例や観光庁の取組を交えて紹介する観光防災セミナーを開催しました（52名参加）。

【観光部 観光戦略課】

施策の柱2 戦略的な観光誘客の推進

〔戦略2－1 戦略的な観光マーケティングの推進〕

【観光マーケティングデータの収集・分析・提供】

- データに基づいた観光マーケティングを推進するため、旅行者の属性や出発地、県内での立ち寄り場所等のデータ取得・収集や観光客実態調査、県内宿泊事業者に対するインバウンド受入状況調査等に取り組みました。
- 地域におけるデータを分析・活用する能力向上を支援するため、市町・DMO・観光協会を対象に、データに基づいた観光マーケティングに関する研修を実施しました（開催回数：6回、延べ参加団体数：60者）。

【観光部 観光戦略課】

〔戦略2－2 国内観光誘客の推進〕

【大都市圏向けプロモーションの推進】

- 首都圏等大都市圏からの誘客促進に向け、メディアや旅行事業者等を対象とした観光情報説明会やSNS、各種広告等さまざまな手段を組み合わせることにより、効果的に三重の魅力を発信し、本県の認知度向上に取り組みました（観光情報説明会（令和7年7月18日開催）：201名参加、交通広告：JR東京駅、阪急大阪梅田駅の2か所）。

【観光部 観光誘客推進課】

【大規模イベントを契機とした誘客の推進】

- 大阪・関西万博を契機とした誘客促進に向け、交通事業者との連携による企画きっぷや万博と三重県をあわせて周遊できる旅行商品のプロモーション、万博来場者を本県への来訪につなげるための観光キャンペーンに取り組みました（観光キャンペーン申込者数（三重県来訪者数）：6,820人）。

【観光部 観光誘客推進課】

- 関西パビリオンへ三重県ブースを出展し、三重県の魅力を体感・体験できる常設展示を設置するとともに、期間限定で6つの特集テーマにあわせた特別展示、各市町の魅力を発信する「市町デー」を実施することで、三重県の魅力を発信しました（来場者数 632,334人）。

【雇用経済部 大阪・関西万博PT】

【戦略2-3 インバウンド誘客／MICE・産業観光の推進】

【インバウンドプロモーションの推進】

- ゴールデンルートや関西圏からの誘客を促進するため、OTAを活用し、ゴールデンルートや関西圏の旅行を計画する個人旅行者（FIT）層に対して、広告配信を行いました（広告のインプレッション数：33,856,935回）。
- EXPO2025 関西観光推進協議会に参画し、大阪・関西万博の開催期間中における情報発信等のプロモーションや三重県商品造成による三重県への周遊促進を行いました（商品造成数：19商品）。

【観光部 海外誘客課】

- 観光誘客に重点的に取り組む国において、（公社）三重県観光連盟が行う旅行会社を対象としたセミナー・商談会、ファムトリップ、インフルエンサーの招請によるプロモーション等を支援し、本県の知名度向上およびツアー造成を促進しました（セミナー・商談会参加社数：69社、インフルエンサー招請数：13組）。
- タイのトップインフルエンサーによる情報発信を実施し、レンタカーで関西国際空港-中部国際空港のルートで三重県内を周遊するプランをPRしました（動画視聴回数：約94万回）。

【観光部 海外誘客課】

【MICE誘致・産業観光の推進】

- 首都圏と関西圏で営業活動を行うレップを設置し、MICE開催にかかる情報収集やセールス活動を行いました。また、MICE誘致にかかる商談会に参加し、バイヤー等との商談により誘致に取り組みました（令和7年度国際会議に該当する学会開催数：9件）。

【観光部 海外誘客課】

施策の柱3 魅力的な観光産業の確立

【戦略3-1 観光産業の生産性向上】

【観光事業者の経営力向上】

- 観光産業の生産性向上に向け、伴走型個別コンサルティングによる支援を8事業者（うち3者は

令和6年度からの継続) に対して実施するとともに、ワークショップの開催を通して9事業者に対して生産性向上の取組導入を支援しました。また、その取組内容をまとめた事例集の作成や報告会を実施し、横展開を図りました。

【観光部 観光戦略課】

〔戦略3-2 観光産業を支える人材の確保・育成・定着〕

【人材の確保・育成】

○人材の確保・育成・定着に向け、伴走型の個別コンサルティングによる支援を6事業者に対して実施するとともに、人材確保等の取組導入を支援しました。また、その取組内容をまとめた事例集の作成や報告会を実施し、横展開を図りました。

【観光部 観光戦略課】

(3) 令和8年度の取組について

令和6年度から令和8年度までを期間とする基本計画に基づき取組を進めております。

また、基本計画の計画期間が令和8年度で終了することから、次期三重県観光振興基本計画の策定を進めてまいります。

4 次期三重県観光振興基本計画（素案）について【概要】

➤ 計画期間

令和9年度（2027年度）から令和13年度（2031年度）までの5か年とする。

➤ 計画のコンセプト

10年後のめざす姿

『国内外から“訪れるべき場所”として選ばれ続け、調和によって持続的に発展する観光地』

- 本県の魅力を求めて国内外様々な旅行客が訪れることで、観光産業が本県経済を支える主要な産業となるとともに、観光産業に従事する方々がいきいきと働き、持続的に事業を営んでいる。
- 「訪日外国人旅行者と日本人旅行者の誘客の調和」、「観光と地域住民の生活の質の調和」、「式年遷宮前後の旅行需要の調和」という“三重（さんじゅう）の調和”によって、地域に活力と交流をもたらし、住民が愛着や誇りをもち、持続的に発展する観光地になっている。

➤ 施策の柱

施策の柱1

質が高く、持続的な観光地づくり

- ・「プラス1泊」を促すための滞在型周遊観光の整備
- ・ソフト・ハード両面の高付加価値化を含めた観光インフラの充実
- ・オーバーツーリズムの未然防止に向けた現状把握、取組の検討・実施

施策の柱2

戦略的な観光誘客の推進

- ・関東圏からのさらなる来訪促進に加え、関西圏・中京圏へ「プラス1泊」の滞在価値を訴求
- ・「みえインバウンド誘客計画」に基づき、新しい広域周遊ルートの確立など、国・地域に応じた最適なターゲティング・プロモーションを展開

施策の柱3

魅力的な観光産業の確立

- ・国内外の観光客の安定的な供給を受け入れられる観光産業とするための、生産性向上や人材育成・定着と確保のさらなる推進

横断的視点

戦略的な観光マーケティングの推進

取組の充実・継続

- ・県・全県DMOのデータ整備等による、県・DMO等・事業者におけるデータの利活用のさらなる推進
- ・観光振興にかかる安定的な財源確保の検討

4 次期三重県観光振興基本計画（素案）について【概要】

➤ 計画の施策体系と主な取組内容

【施策の柱1】質が高く、持続的な観光地づくり

戦略1－1 三重の観光資源を生かした滞在型周遊観光の推進

- (1) 滞在価値の磨き上げおよび創出に向けた取組
 - ・三重自慢の観光資源を活用した滞在価値の創出、伝統産業や県産品の販路拡大・認知度向上
- (2) 滞在型周遊観光の推進
 - ・熊野古道や伊勢神宮など歴史・文化等を踏まえたブランディングやストーリー性のある県内外の広域周遊ルート造成 等

戦略1－2 旅行者を受け入れる観光インフラの整備・高付加価値化

- (1) 観光インフラの整備
 - ・多言語案内の充実、バリアフリー観光の推進 等
- (2) 交通アクセスの整備
 - ・二次交通の充実や新たな交通アクセスの検討 等
- (3) 高付加価値旅行者の旅行体験の充実
 - ・宿泊施設や体験コンテンツの上質化 等

戦略1－3 持続可能な観光地マネジメント

- (1) DM0を中心とした持続可能な観光地マネジメントの推進
 - ・全県・地域DM0の体制整備支援
- (2) オーバーツーリズムの未然防止に向けた取組
 - ・観光客の集中等による地域負荷の現状把握と未然防止 等
- (3) 三重の観光資源を守る取組の推進
 - ・自然環境の保全 等
- (4) 観光に対する地域住民の理解促進・満足度向上
 - ・旅行者の責任ある行動の推進 等
- (5) 観光振興効果の地域への還元
 - ・農林水産物の地産地消による域内調達率向上 等

【施策の柱2】戦略的な観光誘客の推進

戦略2－1 国内観光誘客の推進

* 三重県が提供する価値を言語化したキャッチフレーズの活用

- (1) 神宮式年遷宮や全国植樹祭、国民スポーツ大会等を契機とした誘客の推進
 - ・神宮式年遷宮等の関連行事やトピックを捉えた観光プロモーション
- (2) 関東圏からの誘客
 - ・多様な手段を活用したプロモーション、三重テラスからの魅力発信 等
- (3) 関西・中京圏からの誘客
 - ・「プラス1泊」に向けた取組 等

戦略2－2 インバウンド誘客／MICE・産業観光の推進

* 「みえインバウンド誘客計画」に基づく施策展開

- (1) ゴールデンルートを周遊する旅行者の取り込み
 - ・他府県と連携したプロモーション、交通事業者や空港との連携 等
- (2) 認知度の向上に向けた施策展開
 - ・F1等国际的イベントを活用した認知度向上 等
- (3) 重点的に取り組む市場の設定
 - ・重点市場：台湾、タイ、シンガポール、フランス、ドイツ、米国
 - ・開拓市場：インドネシア、インド
- (4) 市場横断的な取組
 - ・高付加価値旅行者層の誘致促進 等

【施策の柱3】魅力的な観光産業の確立

戦略3－1 観光産業の生産性向上

- (1) 観光産業事業者の経営力向上
 - ・専門家による伴走支援等を通じた生産性向上の取組 等
- (2) 観光産業における事業承継の促進
 - ・円滑な事業承継の支援

戦略3－2 観光産業を支える人材の育成・定着と確保

- (1) 新たな価値創出につながる人材の育成・定着と確保
 - ・産学の人材交流促進、マッチング支援 等
- (2) 働き方改革の推進
 - ・多様な働き方や福利厚生など職場環境の整備推進 等

<横断的視点>

- (1) 戦略的な観光マーケティングの推進
 - ・データの充実や利活用の推進、DM0の観光マーケティング戦略の実行支援 等
- (2) 取組の充実・継続
 - ・安定的な財源確保に向けた検討

4 次期三重県観光振興基本計画（素案）について【概要】

主目標・副目標とその選定理由		現状値 (R7)	目標値 (R13)	目標値設定理由
＜主目標＞ 観光消費額	人口減少に伴い県内消費の縮小が懸念される中、旅行者による観光消費が増加し、観光産業が本県経済を支える主要な産業となっていることを確認すべく、観光消費額を主目標としました。	5,697億円	7,000億円	日本の総人口の推移、訪日外国人旅行者の動向、式年遷宮による来訪者の予測を踏まえ、日本人旅行者、訪日外国人旅行者ともに宿泊消費・日帰り消費をそれぞれ算出のうえ、足し合わせた値を設定しました。
＜中長期検証指標＞ 経済波及効果額	目標値は設定しないものの、観光消費が県内事業者や地域産業にどのように波及しているかを把握する目的で、中長期検証指標として選定しました。	7,878億円	—	—
＜副目標＞施策の柱1：質が高く、持続的な観光地づくり				
観光紹介意向率	質が高く、かつ持続可能な観光地づくりが進んでいるかを確認することを目的に、旅行者・地域住民双方の満足度の高さを確認するための指標として選定しました。	37.2% (89.1%)	41.4% (90.9%)	上段「大変そう思う」：過去最も高かったH25から一旦下降したものの、現状値まで回復しており、今後はH25から現状値の上昇幅である0.7ポイントずつ、毎年安定的に増加していくものと見込み設定しました。 下段「大変そう思う～やや思う」：過去最高値の90.9%（H28）を維持することを目標に設定しました。
観光がプラスの効果をもたらすと捉えている地域住民の割合		60.8%	68.1%	過去の実績をみると、R4から2年連続で下降したものの、現状は回復傾向にあることから、この傾向を維持し、過去最高値である68.1%（R4）まで増加していくよう設定しました。
＜副目標＞施策の柱2：戦略的な観光誘客の推進				
県内延べ宿泊者数	宿泊を中心とした国内外旅行者の誘客により、宿泊者数の増加につながったかを確認するため選定しました。	936.9 万人泊	1,000 万人泊	県内宿泊施設の稼働率を考慮しつつ、日本人延べ宿泊者数と外国人延べ宿泊者数の目標値の積み上げにより設定しました。
＜参考指標＞ 訪日外国人延べ宿泊者の割合	KPIとはしないものの、訪日外国人旅行者と日本人旅行者の誘客の調和の観点から、全体に占める訪日外国人延べ宿泊者の割合を把握する目的で、参考指標として選定しました。	4.06%	—	—
＜副目標＞施策の柱3：魅力的な観光産業の確立				
観光従事者満足度	観光産業の土台を支える観光従事者が、誇りを持ち、満足な環境で働いていることを確認するため選定しました。	64.4%	69.4%	過去の実績をみると増加傾向にあることから、今後もこれまでの傾向を維持すると見込み、現状値から過去2年間の増加幅の縮小割合を加味して目標値を設定しました。

4 次期三重県観光振興基本計画（素案）について【概要】

➤ 戦略目標			現状値 (R7)	目標値 (R13)
施策の柱1：質が高く、持続的な観光地づくり				
1-1	三重の観光資源を生かした滞在型周遊観光の推進	平均滞在時間	158.5分	163.3分
1-2	旅行者を受け入れる観光インフラの整備・高付加価値化	宿泊者満足度	42.4% (97.5%)	50.0% (97.5%)
		日本人宿泊者観光消費単価	44,000円	49,200円
		訪日外国人宿泊者観光消費単価	93,000円	102,000円
1-3	持続可能な観光地マネジメント	観光客の戦略的な誘客と 住民生活の質の確保との両立に取り組む 市町・DMO・観光協会の数	累計1団体	累計4団体
施策の柱2：戦略的な観光誘客の推進				
2-1	国内観光誘客の推進	日本人延べ宿泊者数	898.8万人泊	925.0万人泊
		関東圏からの来訪者の割合	6.1%	10.2%
		関西圏・中京圏の平均宿泊日数	関西圏：1.10泊 中京圏：1.08泊	関西圏：1.19泊 中京圏：1.17泊
		関西圏・中京圏の宿泊者割合	関西圏：36.3% 中京圏：27.9%	関西圏：39.4% 中京圏：33.7%
2-2	インバウンド誘客／MICE・産業観光の推進	外国人延べ宿泊者数	38.0万人泊	75.0万人泊
		産業観光開催件数	427件	572件
施策の柱3：魅力的な観光産業の確立				
3-1	観光産業の生産性向上	生産性向上に取り組んだ事業者数	累計 117者	累計304者
3-2	観光産業を支える人材の育成・定着と確保	待遇改善に取り組んだ事業者数	累計 84者	累計208者

令和8年度第2回三重県観光審議会の主なご意見

参考

令和8年8月24日に開催しました令和8年度第2回三重県観光審議会において、次期三重県観光振興基本計画策定に向け、本計画の素案について審議いただきました。主なご意見は以下のとおりです。
今後、中間案への反映に向け、主なご意見への対応方法の検討を行います。

No	項目	主なご意見
1	施策の柱1 質が高く、 持続可能な観光地づくり	観光コンテンツの充実は重要なテーマ。周遊促進や情報発信は魅力あるコンテンツが存在することを前提とした施策であり、まずは観光資源の磨き上げやコンテンツ造成に重点を置く必要があると考える。
2		広域連携は、別の地域を組み合わせることで今までになかった旅をつくることであり、そうすることにより、地域間で旅行者を取り合うのではなく、県全体で滞在を増やすことができる。
3		三重県の閑散期である冬に宿泊してもらうためには、冬ならではの滞在価値の提案が必要である。例えば、その時期にしか見られない観光資源を価値として打ち出していくべきである。
4		食については、三重県は全国的なグルメ市場での認知度が低いことから、魚介や食材のブランド化をさらに進め、来訪動機となり得るよう強力に発信すべきである。
5		閑散期対策については、客室稼働率だけでなく、入込数や時間帯等も含めたきめ細かな分析が必要である。
6		オーバーツーリズム対策については定義が定まっていないため、三重県としての考え方を整理し、まずは過集中が生じている曜日・時期等を調査する必要がある。
7		DMOの取組体制の強化が必要である。先駆的DMOのレベルに達している等の組織面の目標を共有し、そのための具体的な取組を実施することで、外部から三重県全体の観光推進体制が評価され、さらに取組の前進につながるという動きが必要だと考える。
8		三重県は地震や津波のリスクを抱えており、インフラだけでなくネットワークや情報発信を含め、災害時に安心できる観光地としての備えも検討すべきである。
9	施策の柱2 戦略的な観光誘客の推進	式年遷宮は、令和15年を待つのではなく、準備過程や宇治橋架け替え等も含めて今から発信し、その価値を伝えるべき。式年遷宮の意味や背景まで伝えることで、神宮周辺だけでなく、県内各地への波及を意識して発信すべきである。
10	施策の柱3 魅力的な観光産業の確立	観光関連産業従事者の平均年収が県内平均より100万円低い点は重い課題である。待遇改善が進めば、他地域にも誇れる取組となり、来訪者にも伝わるはずである。
11	横断的視点 戦略的な観光マーケティングの推進	最も重要なのは横断的視点にある「戦略的な観光マーケティングの推進」であると考えている。
12	目標項目	KG I、KP Iの各種目標値の数値が小数点以下など細かすぎると目標が伝わりづらくなるのではないかと。また、目標達成の意味を明確にする必要がある。
13		KG I、KP Iの目標値は、これまでの実績の最高値を目標にするのではなく、少しでも上回る目標にした方がよいのではないかと。

※今後の計画策定スケジュール

令和8年10月	観光審議会委員意見集約 中間案の作成
11月	第3回観光審議会 パブリックコメント受付開始
12月	常任委員会 パブリックコメント締切 最終案の作成 第4回観光審議会
令和9年2月	議案提出

5 指定管理者が行う三重県営サンアリーナの管理状況報告について

(1) 管理状況の県議会の報告

指定管理者制度に関する取扱要綱に基づき、三重県営サンアリーナに関する「令和7年度 指定管理者が行う公の施設の管理状況及び評価」を報告します。【資料1】
加えて、令和7年度をもって指定管理期間が終了したため、同要綱に基づき「指定管理全体の管理の実績に関する評価」を合わせて、報告します。【資料2】

(2) 指定管理の状況

公の施設	指定管理者	指定期間
三重県営サンアリーナ	株式会社スコルチャ三重	令和3年4月1日～ 令和8年3月31日【4期目】

※現在、同社は、令和8年4月1日から令和13年3月31日まで、5期の管理を実施中です。

(3) 評価基準

ア 指定管理者の自己評価の基準

①評価の項目「1 管理業務の実施状況」の評価

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
- 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

②評価の項目「2 施設の利用状況」「3 成果目標及びその実績」の評価

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 当初の目標を達成している。
- 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

イ 県の評価の基準

- 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
- 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
- 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和7年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 : 観光部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保 (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 サンアリーナの事業の実施に関する業務 2 サンアリーナの施設等の利用の許可等に関する業務 3 サンアリーナの利用料金の収受等に関する業務 4 サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R7	R6	R7	R6	
1 管理業務の実施状況	A	A			開設から31年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、計画的な設備更新により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。 また、独自に作成した「熱中症対応手順書」を活用し、安全な事業の実施に貢献している。
2 施設の利用状況	B	B			イベントや会議、コンサートなど多岐にわたる用途で施設が活用された。集客力の大きいコンサートは3件開催されたほか、自主事業の実施等により、全館年間利用件数は556件と目標値を超えるなど、利用拡大のための取組が実績につながっている。 一方で、平均稼働率や利用人数が目標を下回っていることから、引き続き関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施等により、施設利用のさらなる増加に向けた取組が求められる。
3 成果目標及びその実績	B	C			数値目標について、昨年度から達成項目が2つ増加し、6つのうち3つの項目を達成することができた。また、2つの未達成項目については、目標値に近い成果・実績をあげている。 一方で、利用人数は令和6年度実績からやや減少しており、目標の30万人には至っておらず、引き続き利用者ニーズを踏まえながら利用促進の取組を進めて行く必要がある。

※「評価の項目」の県の評価 : 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	○開設から31年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、計画的な設備更新により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。また、独自に作成した「熱中症対応手順書」を活用し、安全な事業の実施に貢献している。 ○イベントや会議、コンサートなど多岐にわたる用途で施設が活用される中で、集客力の大きいコンサートは3件開催されたほか、自主事業の実施等により、全館年間利用件数は556件と目標値を超えるなど、利用拡大のための取組が実績につながっている。 ○数値目標について、昨年度から達成項目が2つ増加し、6つのうち3つの項目を達成することができた。また、2つの未達成項目については、目標値に近い成果・実績をあげている。一方で、利用人数は令和6年度実績からやや減少しており、目標達成には至っていない。 ○コンサート等の誘致や地域に密着した自主事業の実施等の積極的な取組により、一定の成果が現れている。引き続き、成果目標の達成に向けて、利用者のニーズを踏まえながら、関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施等を通じて、さらなる施設の利用促進を図ることが求められる。
--------	---

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①三重県営サンアリーナ管理運営事業の実施に関する業務

■熱中症対策の推進

令和6年度に策定した「熱中症対応手順書」を活用し、暑さ指数(WBGT)の測定、利用者との情報共有及び冷房利用の推奨を実施した。令和7年8月は記録的な猛暑となったが、冷暖房設備を有する施設の特性を生かし、屋内スポーツ大会をはじめとする事業を安全に実施することができた。猛暑時におけるスポーツ活動の受け皿として県民の安全確保に貢献するとともに、熱中症リスク低減に向けた取組を推進した。

■防犯対策の強化

利用者及び職員の安全確保を目的として、防犯訓練を実施した。不審者侵入事案を想定し、刺股を使用した実技訓練を行うことで、緊急時の初動対応や職員間の連携体制を確認した。近年、全国的に公共施設等における不審者事案が発生している状況を踏まえ、利用者が安心して施設を利用できる環境づくりに努めるとともに、職員の防犯意識及び危機管理能力の向上を図った。

■防災対策の強化

「三重県広域受援計画」における広域防災拠点としての役割を踏まえ、三重県南勢志摩地域活性化局、一般社団法人三重県トラック協会及びサンアリーナ施設職員による災害時対応訓練を実施した。訓練では、災害時における救援物資の輸送を想定し、搬入車両の動線確認や物資受入れオペレーションの検証を行った。南海トラフ地震の発生が懸念される中、防災関係機関との連携強化及び施設の防災機能向上に取り組んだ。

また、令和7年3月に完成した当社独自の施設職員向け防災備蓄倉庫について、備蓄品の増強を実施した。

■広報及び利用促進活動

主に次の広報活動を通して施設の利用促進を図った。

・施設独自の月刊広報誌「サンアリーナかわら版」の発行(発行部数 約6,000部/月)

・伊勢地域みっちゃく生活情報誌「イセラ」での情報発信(発行部数 約65,000部/月)

毎月、ボルダリングDAYの開催案内を掲載

・行政が発行している広報紙での情報発信

自主事業開催のお知らせを「広報いせ」7回掲載

・その他媒体での情報発信

フリーペーパー「レッツ」にサンアリーナスクールの情報を掲載し、中日新聞にはイベント告知チラシの折り込みを実施した。

・施設ホームページにおける情報発信

計56回の更新を行い積極的に情報発信

・大会・興行関係者への誘致活動

令和7年度も、コンサート等の誘致に向け、プロモーション会社や興行関係者との意見交換を実施。サンアリーナの施設機能や、伊勢志摩地域の魅力を発信し、将来の開催に向けた関係強化と誘致活動を推進。

■自主事業の実施

計31件、延べ126回の自主事業を開催し、延べ5,209名の来館者をお迎えした。地元企業や各関係団体などの協力をいただきながら、地域の皆様へスポーツ教室やカルチャー講座に参加して頂く機会を提供するとともに、施設利用料の一部を施設側にて負担し、運営の協力をさせていただいている「サンアリーナカップ」も開催し、スポーツ競技の普及・振興に寄与した。

■地域活性化活動

・3回のコンサート開催を通じて、地域活性化(宿泊、交通、観光、土産)に大きく寄与した。

・「トレイルウォーキングin伊勢」を開催し、伊勢の観光資源を活用した地域の魅力発信と健康増進に取り組んだ。また、地域企業や総合型地域スポーツクラブとの連携事業を継続的に実施し、地域とのつながりを深めるとともに、観光振興及び地域活性化に寄与した。

■省エネへの取組

「三重県営サンアリーナ全館完全LED化計画」に基づき、施設設備の省エネルギー化を推進した。令和7年度は、メインアリーナの誘導灯12台をLED機器へ更新するとともに、管理・会議棟及びサブアリーナ1階部分の照明設備のLED化を実施した。計画的な設備更新により電力消費量の削減を図り、環境負荷の低減及び効率的な施設運営に取り組んだ。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

■ 日常の設備運転に関して

職員による日常巡視を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合等に迅速に対応した。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。

■ 環境整備事業に関して

環境整備事業は、下記5件の事業について計画的に実施し、施設の安全性・利便性の維持向上を図った。

- ・第1回環境整備事業 メインアリーナ仮設音響設備工事
- ・第2回環境整備事業 A 駐車場トイレ移設建替工事設計業務委託
- ・第3回環境整備事業 排水設備整備及び浄化槽廃止工事
- ・第4回環境整備事業 監視カメラ設備更新工事
- ・第5回環境整備事業 電気設備更新工事

③県施策への配慮に関する業務

■ 車椅子対応センサー式冷水機設置後の利用状況

令和4年度第3回環境整備事業にて更新いただいた車いす対応センサー式冷水機(ウォータークーラー)4台におけるマイボトル給水機能の利用状況及びCO2(二酸化炭素)の削減効果については下記の通りとなった。

設置場所	給水回数(1回あたり500ml)
1階サブアリーナトレーニング室前	4,344回
2階サブアリーナ観客席前	1,134回
3階メインアリーナA入口ロビー	2,795回
4階メインアリーナA自販機横	1,262回
合 計	9,535回

※一般的な500mlペットボトルの製造・廃棄・リサイクルにかかるCO2(二酸化炭素)排出量は、1本あたり119gであるため、 $119\text{g} \times 9,535\text{本} = 1,134,665\text{g}$ のCO2(二酸化炭素)削減につながった。

【引用先:環境省/リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析について】

本件は、熱中症への対応策としてはもちろんのこと、県が推進するSDGsへの取組にも貢献できたと考ええる。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

■ 令和7年度、情報開示請求はなかった。

⑤その他の業務

■ 周辺交通・駐車場対応

コンサートが3件開催され、周辺交通・駐車場対応について心配されたが、以前から継続しているホームページ等での公共交通機関のご利用のお願いにより、駐車場が溢れることもなく、地域住民に迷惑になるような事象もなく終了した。

■ 人材育成事業

人材育成事業として、下記講習等に職員が参加した。

- ① 日本ノルディックウォーキング協会認定「インストラクターライセンス取得」事業グループ1名(7月)
- ② 日本スポーツ施設協会主催「公認スポーツ施設管理士養成講習会」サービスグループ1名(9月)
- ③ SMBCコンサルティング主催「消費税の基礎知識と実務対応」総務グループ1名(1月)
- ④ SMBCコンサルティング主催「就業規則の基本と法改正への対応」総務グループ1名(2月)

(2)施設の利用状況

【平均稼働率】	(7年度実績)	(目標)	(6年度実績)	【利用人数】	(7年度実績)	(目標)	(6年度実績)
メインアリーナ	56.4%	60.0%	54.3%	アリーナ	154,690人	-	163,618人
サブアリーナ	65.0%	70.0%	67.6%	会議室等	20,795人	-	15,793人
会議室等	20.1%	20.0%	19.2%	トレーニング室	4,202人	-	4,264人
				フィットネス室	2,579人	-	2,499人
				合 計	182,266人	300,000人	186,174人

2 利用料金の収入の実績

	7年度実績	7年度目標	対目標比	6年度実績	対前年比
利用料金収入	88,036,029円	73,700,000円	119.5%	90,438,592円	97.3%
※利用料金減免等の内訳 割引金額 2,960,938円 減免金額 2,285,884円 特別割引金額 51,725円 特別減免金額 1,969,200円 合計 7,267,747円					

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R7年度	R6年度		R7年度	R6年度
指定管理料	205,143,000	206,721,000	人件費	71,156,971	71,606,333
利用料金収入	88,036,029	90,438,592	光熱水費	56,770,912	58,898,089
自主事業収入	10,807,719	19,562,241	その他一般管理費	140,649,822	149,555,994
営業外収入	7,932,445	8,767,090	自主事業経費	12,066,272	19,786,071
特別利益	0	0	消費税	9,498,994	9,433,580
合計 (a)	311,919,193	325,488,923	合計 (b)	290,142,971	309,280,067
収支差額 (a)-(b)	21,776,222	16,208,856			

※収支差額は法人税等税引前当期純損益額

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	7,267,747	7,224,176
---------	-----------	-----------

4 成果目標とその実績

【数値目標】	目標値	成果・実績	備考(参考数値)
メインアリーナ平均稼働率	60.0%	56.4%	令和6年度54.3% 令和5年度 57.2% 令和4年度 53.5%
サブアリーナ平均稼働率	70.0%	65.0%	令和6年度67.6% 令和5年度 69.0% 令和4年度 66.3%
会議室等平均稼働率	20.0%	20.1%	令和6年度19.2% 令和5年度 18.8% 令和4年度 14.0%
自主事業イベント件数	30件	31件	・スポット型28件/42回/年間(スポーツ健康振興事業、文化事業等) ・通年型3件/84回/年間(スポーツ教室、ダンススクール、 ボルダリングDAY)
全館年間利用件数	500件	556件	令和6年度483件 令和5年度 494件 令和4年度 510件
アリーナ利用人数	—	154,690人	令和6年度163,618人 令和5年度 122,457人 令和4年度 106,616人
会議室等利用人数	—	20,795人	令和6年度15,793人 令和5年度 14,163人 令和4年度 14,960人
トレーニング室利用人数	—	4,202人	令和6年度4,264人 令和5年度 4,375人 令和4年度 5,209人
フィットネス室利用人数	—	2,579人	令和6年度2,499人 令和5年度 3,165人 令和4年度 4,078人
サンアリーナ利用人数合計	300,000人	182,266人	令和6年度186,174人 令和5年度 144,160人 令和4年度 130,863人

今後の取組方針	■平成18年4月の指定管理業務開始以来20年が経過し、その間、県内最大級の多目的施設としてスポーツ、文化及び観光振興に寄与してきた。しかしながら近年は、気候変動による猛暑の常態化や少子高齢化の進展など、施設を取り巻く環境が大きく変化している。これまで培ってきた管理運営のノウハウを活かしながら、社会情勢や利用者ニーズの変化に柔軟に対応し、県民に親しまれる施設運営を推進していく。 ■暑熱環境の変化に伴い、屋外スポーツ大会の開催時期や競技環境にも変化が見られることから、空調設備を有する大型施設としての特長を活かし、スポーツ大会や各種イベントの受入れを行うとともに、屋外競技の屋内開催など新たな利用提案を行い、施設利用の拡大に取り組む。 ■少子高齢化による利用者層の変化を踏まえ、スポーツ大会施設としての役割に加え、企業レクリエーションや地域イベントなど幅広い用途での利用を促進する。また、シニア層の利用増加を見据えた安全対策やバリアフリーへの配慮を進めるとともに、乳幼児を含む幅広い世代が快適に利用できる施設環境の充実を図る。 ■大型コンサートやスポーツイベント等の誘致については、引き続きプロモーション会社や興行関係者との情報交換及び提案活動を継続する。伊勢志摩地域の魅力や施設の優位性を発信するとともに、主催者への運営支援や地域情報の提供を行い、開催しやすい環境づくりを進める。 ■令和15年の式年遷宮を見据え、観光関係団体、交通事業者、宿泊事業者等との連携を強化し、来訪者受入体制の充実を図る。遷宮関連行事や各種大会等への対応を通じ、多くの利用者に満足いただける利用環境の提供に努める。 ■自主事業については、スポーツとカルチャーの両分野において幅広い世代を対象とした事業を実施する。特に「トレイルウォーキング」をはじめとしたスポーツツーリズム事業を継続し、地域資源を活用した交流機会の創出と地域の魅力発信に取り組む。 ■利用者の安全確保に向けては、「熱中症対応手順書」に基づく暑熱対策を継続するとともに、防災・防犯訓練や関係機関との連携を通じて危機管理体制の強化を図る。また、施設の経年劣化に対応するため、県と連携しながら計画的な設備更新や修繕を行い、安全・安心な施設運営を推進する。
----------------	---

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R7	R6	
1 管理業務の実施状況	A	A	■職員による日常点検を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合や障害に関しても、迅速な対応にあたった。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。 ■サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」を作成し、令和6年7月より運用を開始した。令和7年度も引き続き、ご利用者と暑さ指数の確認の場を設け、場合によっては冷房設備の利用を促し、その対応を記録保管するなど、これまでより一歩進んだ取り組みを行った。 ■7月に発生した津波警報発令時には、近隣住民、近隣企業従業員及び観光客など約100名を受け入れ、県営施設として安全確保に貢献することができた。一方で、既存の協定では想定されていない課題も確認されたため、県及び伊勢市と協議を行い、災害時対応の整理と体制協議につなげた。 ■令和6年度に独自に作成した「三重県営サンアリーナ全館完全LDE化計画」に基づき、令和7年度も下記のとおり計画的に照明器具のLEDへの更新を行った。 ・メインアリーナ観客席上部(埋込型10台)及びキャットウォーク(2台)に設置されている誘導灯12台。 ・管理・会議棟及びサブアリーナ1階部分(正面玄関ロビー・会議棟廊下・第4会議室・第1特別室・第1・2器具庫・倉庫・東西階段室・電気室・機械室)。

2 施設の利用状況	B	B	■3件のコンサートや、スポーツ大会も東海大会や全国大会といった大規模大会も開催されるなど、毎週末多くのご利用者で賑わった。平均稼働率では、サブアリーナが微減となったが、メインアリーナ及びその他会議室は令和6年度を上回った。その他会議室においては、自主成果目標を超え、会議・研修・講習会など多様な用途で利用が増加した。 ■3件のコンサートが開催されたことをはじめ、お伊勢さんマラソンや全日本中学生ソフトテニス大会、伊勢志摩労働者福祉協議会の福祉フェスティバルなど大型のスポーツ大会やイベントも開催された。
3 成果目標及びその実績	B	C	■各種スポーツ大会では、県大会に加え、東海大会や全国大会も開催されるなど、広域的な利用があった。コンサートをはじめとする大規模イベントも開催され、多くの来場者を迎えることができた。施設の平均稼働率は、令和6年度比でメインアリーナ103.8%、サブアリーナ96.1%、その他会議室100.5%となった。利用人数は、182,266人で令和6年度比97.9%となったものの、利用件数は556件となり、目標である500件を上回った。一方で、少子高齢化による競技人口の減少等を背景に1大会あたりの参加者数は減少傾向にあり、今後の動向を注視していく必要がある。 ■自主事業は、「トレイルウォーキングin伊勢」を実施するなど、31件の自主イベント事業を実施し、30件の目標を達成した(令和6年度実績35件)。

※評価の項目「1」の評価：

「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価：

「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	■令和7年度は、スポーツ大会や学会、大型コンサートをはじめとする多様なイベントが開催され、三重県営サンアリーナがスポーツ、文化及び地域交流の拠点施設としての役割を発揮した一年となった。「GENERATIONS」、「岩田剛典」、「THE RAMPAGE」などの大型コンサートや全国規模の学会が開催され、県内外から多くの来場者を迎えることで、地域経済の活性化や交流人口の拡大に寄与することができた。また、利用件数は556件となり目標の500件を上回り、施設利用の促進につながった。 ■近年の気候変動に伴う猛暑や天候不順により、空調設備を備えた大規模屋内施設としての役割は一層重要となっている。令和7年度においても、熱中症対策手順書に基づく暑さ指数(WBGT)の測定や情報提供、空調利用の推奨を行い、安全な施設利用環境の提供に努めた。その結果、各種スポーツ大会やイベントを安全に実施することができ、県民のスポーツ・文化活動を支える受け皿としての役割を果たした。 ■4月にリニューアルしたトレーニング室の活用をはじめ、スポーツ教室やカルチャー講座、トレイルウォーキングなどを通じて、地域住民の健康増進や交流機会の創出に取り組んだ。さらに、企業レクリエーション、幼稚園・保育園の室内運動会、雨天時の遠足対応など、社会環境の変化に応じた新たな利用形態も定着しつつあり、「大きな屋根のある空間」としての施設価値の向上につながった。 ■防災・防犯面では、南勢志摩地域活性化局及び三重県トラック協会と連携した災害時救援物資オペレーション訓練を実施したほか、不審者対応を想定した防犯訓練も実施し、広域防災拠点としての機能強化と危機管理体制の充実を図った。また、津波警報発令時には近隣住民や観光客等約100名の避難者を受け入れ、地域の安全・安心に貢献することができた。施設管理面においては、日常点検、設備保守及び計画的な修繕を実施し、不具合箇所等の早期発見及び早期対応に努めた。加えて、「全館完全LED化計画」に基づく設備更新を進めるなど、安全性の確保、施設機能の維持及び省エネルギー化を推進し、利用者が安心して利用できる環境整備に取り組んだ。 ■一方、利用件数は増加しているものの、少子化の進展に伴う競技人口や大会参加者数の減少傾向が見られ、一大会あたりの参加者数は減少している。また、愛知県をはじめとする近隣地域における大型施設との競争も激しくなっている。このような環境変化を踏まえ、今後はシニア層やインクルーシブスポーツなど新たな利用需要への対応を進めるとともに、コンサートや大型イベントの誘致、スポーツツーリズムの推進、遷宮を見据えた受入体制の強化などを通じて、施設利用の拡大と地域活性化に取り組む必要がある。 ■今後も県内最大級の多目的施設としての強みを活かし、安全・安心な施設運営と適切な維持管理を継続するとともに、スポーツ、文化、観光及び防災の各分野において、県民サービスの向上と地域社会への貢献に努めていく。
--------	---

【資料2】

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名： 観光部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ（伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4）
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1. サンアリーナの事業の実施に関する業務 2. サンアリーナの施設等の利用の許可に関する業務 3. サンアリーナの利用料金の收受等に関する業務 4. サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5. 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者 の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
R3	A		○施設の経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するほか、計画的な設備投資により施設の利用環境の改善を図った。 ○猛暑で屋外活動制限が増す中、空調設備を備える施設の特性を生かした誘致・受入れを行うとともに、令和6年度に作成した独自の「熱中症対策手順書」を活用し、利用者の安全・安心に資する適切な施設管理を行った。 ○三重とこわか国体・とこわか大会の中止が決定されたが、開催に向けて、関係者との調整を適切に行い、関係団体の活動にも積極的に協力した。（令和3年度）
R4	A		
R5	A		
R6	A		
R7	A		

3 施設の利用状況

	指定管理者 の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
R3	B		○新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用人数は回復傾向にあり、令和6年度及び令和7年度には、感染症の影響を受けた令和3年度と比較して2.5倍以上となる18万人を超えた。 ○大型イベントであるコンサートの誘致に注力し、5か年で12件のコンサートが開催されるなど、利用者の増加に貢献した。 ○自主事業では、新たに「ヴィアティン三重ホームゲーム」のプロ公式戦の開催のほか、「伊勢の森トレイルランニングレース」やボルダリング施設を活用したイベントを実施することで、利用者の増加に寄与した。
R4	B		
R5	B		
R6	B		
R7	B		

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	1,047,248,000	人件費	343,963,982
利用料金収入	370,985,835	水光熱費	258,640,653
自主事業収入	56,798,843	その他一般管理費	678,222,378
営業外収入	39,417,492	自主事業経費	64,953,747
特別利益	174,209	消費税	48,027,707
合計 (a)	1,514,624,379	合計 (b)	1,393,808,467
収支差額 (a)-(b)	120,815,912		

※参考

利用料金減免額	34,771,413
---------	------------

5 成果目標及びその実績

	指定管理者 の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標項目	目標値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値
R3	C		平均稼働率(メインアリーナ)	60.0%	45.1%	53.5%	57.2%	54.3%	56.4%
			平均稼働率(サブアリーナ)	70.0%	62.3%	66.3%	69.0%	67.6%	65.0%
R4	C		平均稼働率(会議室等)	20.0%	11.0%	14.0%	18.8%	19.2%	20.1%
			自主事業イベント数	30	18	30	34	35	31
R5	C		全館年間利用件数	500	387	510	494	483	556
			利用人数(アリーナ)	－	51,393	106,616	122,457	163,618	154,690
R6	C		利用人数(会議室等)	－	10,027	14,960	14,163	15,793	20,795
			利用人数(トレーニング室)	－	5,348	5,209	4,375	4,264	4,202
R7	B		利用人数(フィットネス)	－	4,101	4,078	3,165	2,499	2,579
			利用人数(合計)	300,000	70,905	130,863	144,160	186,174	182,266
全期間におけるコメント									
○メインアリーナ及びサブアリーナの平均稼働率は、目標値に近い水準で推移しているものの、目標値を達成できていないため、さらなる利用促進の取組が求められる。一方で、会議室等の平均稼働率は、毎年増加し、令和7年度に目標値20%を達成した。さらに、会議室の利用人数も、令和7年度は2万人を超えるなど増加傾向にある。									
○自主事業イベント数は、新型コロナウイルス感染症5類移行後の令和3年度を除いては、すべて目標を達成している。									
○全館年間利用件数は、令和7年度に目標を大きく超えるなど、利用者の増加に向けて積極的に取り組んでいる。									
○利用人数(合計)は、新型コロナウイルス感染症5類移行後、回復傾向にはあるが、目標値の30万人には及んでいない。									

6 総括評価

○施設の経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するほか、計画的な設備投資により施設の利用環境の改善を図った。
○猛暑で屋外活動制限が増す中、空調設備を備える施設の特性を生かした誘致・受入れを行うとともに、令和6年度に作成した独自の「熱中症対策手順書」を活用し、利用者の安全・安心に資する適切な施設管理を行った。
○メインアリーナ及びサブアリーナの平均稼働率は、目標値に近い水準で推移しているものの、目標値を達成できていないため、さらなる利用促進の取組が求められる。一方で、会議室等の平均稼働率は、毎年増加し、令和7年度に目標値20%を達成した。
○全館年間利用件数は、令和7年度に目標を大きく超えるなど、利用者の増加に向けて積極的に取り組んでいる。一方で、利用人数(合計)は、新型コロナウイルス感染症5類移行後、回復傾向にはあるが、目標値の30万人には及んでいない。
以上のように、管理業務の実施状況や施設の利用状況については評価できるものの、一部の成果目標は十分に達成されているとは言えないため、今後はさらなる目標達成に向けて、利用者のニーズを注視しながら、創意工夫ある取り組みで利用者の定着を図ることがより一層求められる。 さらに、開設から31年が経ち、老朽化する施設・設備に対して、施設利用に支障をきたすことのないよう、計画的に修繕等を進めていく必要がある。

※ 「2 管理業務の実施状況」の自己評価

「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※ 「3 施設の利用状況」
「5 成果目標及びその実績」の自己評価

「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

※ 県の評価

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

6 令和8年度上半期の主な取組について

持続可能な観光地づくりやインバウンド誘客、首都圏等大都市圏からの誘客をはじめとした戦略的な観光誘客に取り組んでいます。
引き続き、国内外の旅行者から選ばれる三重県を目指し、着実に取組を進めてまいります。

(1) 受入環境の充実

○インバウンド・ユニバーサルツーリズム・観光防災推進補助金

インバウンドや高齢者、障がい者など誰もが快適に観光を楽しめるよう、受入環境の整備を支援（公募期間：R8.4.17～5.29）

・補助対象施設：宿泊施設、観光施設、土産物店、観光案内所

・補助メニュー：① 高付加価値化・高機能化 ② インバウンド対応
③ バリアフリー・ストレスフリー対応 ④ 観光防災・危機対応

採択数： 58件（申請数：105件）

採択総額： 約5.4億円（申請額：約14.2億円）

○F1日本GP推進に向けた取組

「F1日本グランプリ関連事業推進会議」を設置（R8.6）し、全庁をあげて取組を推進

・県内宿泊の促進 ・魅力発信・周遊の促進

・輸送交通対策 ・ダイセーフォレストパークの利活用 等



F1日本GP2026 スタートセレモニー

(2) インバウンド誘客の取組

○「みえインバウンド誘客計画」の策定（R8.6）

計画期間：令和8年度～令和13年度

●重点市場 台湾、タイ、シンガポール、
フランス、ドイツ、米国

●開拓市場 インドネシア、インド

●目標 外国人延べ宿泊者数（R7）38万人 →（R13）75万人

○重点市場、開拓市場への主なプロモーション

JNTOや三重県観光連盟と連携し、現地に於てプロモーション活動（セミナー・商談会、個別セールスなど）を実施

・台湾（台北・高雄）（R8.6.2～3）

・タイ（R8.5.11、8.31）

・シンガポール（R8.5.12～13）

・インドネシア（R8.9.2～3）

現地セミナー
（インドネシア）



計画検討有識者会議



(3) 首都圏等大都市圏からの誘客の取組

○観光説明会の開催

みえ旅レセプション2026（R8.7.24）

場所：ハイアットリージェンシー東京

式年遷宮やF1日本GPなど三重の多彩な魅力を発信！

- ・首都圏のメディアや旅行事業者等 約200名が参加
- ・テレビや新聞、WEB記事など、約500件で配信！

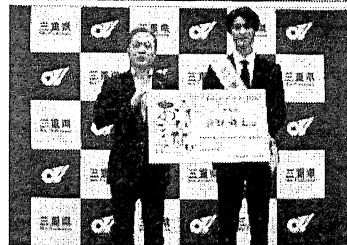


○「三重おいしいナビゲーター2026」の委嘱

影響力のある著名人を「三重おいしいナビゲーター」に委嘱し、三重の魅力を積極的にPR

新たに 曾野舜太氏（M!LK）を委嘱！（R8.7～）

2025は寺家氏（バッテリーズ）を委嘱（2026も継続）



○「三重県×ミジマル」周遊型謎解きイベントの実施

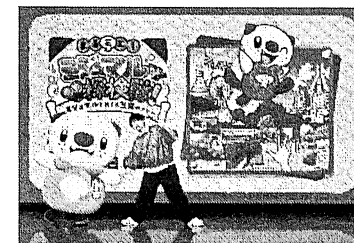
『まるミエ！ミジマル探検隊！』

謎解きブームの仕掛け人・松丸亮吾氏が
代表を務める謎解きクリエイター集団とコラボ！

開始から1か月で 参加者3,500人突破！

【期間】R8.8.7～R9.2.28

【開催地】津市と鈴鹿市の2コース



○豪華観光列車「THE ROYAL EXPRESS」の誘致

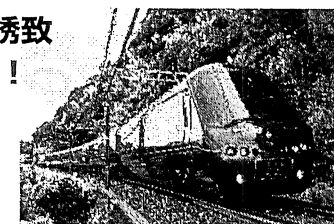
東急（株）とJR東海への働きかけにより県内初運行！

三重の魅力を贅沢に味わう3泊4日の極上の旅！

【運行日】

（1名あたり99万円～）

R8.11.6～9、13～16、R9.2.11～14



7 各種審議会等の審議状況の報告について

(令和8年6月3日～令和8年9月13日)

(観光部)

1 審議会等の名称	令和8年度第2回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和8年8月24日(月)
3 委員	【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 他8名出席
4 諮問事項	次期三重県観光振興基本計画の素案に係る審議
5 調査審議結果	次期三重県観光振興基本計画策定に向けて、本計画の素案についてご審議いただいた。
6 備考	

